

実践『ペルソナ』通信 (No.22)

「実践女子大生における通学時間に対する意識」に関する調査結果
～電車通学が98%、電車通学中にSNSを利用する人は80%～

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「通学時間」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は50サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当:竹内光悦）」、「経営学（担当:篠崎香織）」、「マーケティング（担当:斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、実践女子大生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を科学する研究会です。

総括

渋谷キャンパスに所属する実践女子大生は、通学時間の過ごし方について、50サンプルの実践女子大生から回答を得た。

電車で通学している人は98%と非常に多かった。対して自転車やバスと回答した人は非常に少なかった。

また、有意義に過ごしているかの調査を行ったところ、通学時間との関連性があることがわかった。

さらに、通学時間が長い人ほど有意義に過ごしていることがわかり、理由として、長い通学時間により睡眠時間が確保できるなどがあった。

調査結果のポイント

(1) 電車を使って通学する人が98%

最も時間的に長く使う通学の手段を尋ねたところ、98%の人が「電車」と答えた。「バス」や「徒歩」という回答も見受けられたが、「自転車」と答えた人はいなかった。ほとんどの人が電車を使って通学しているということがわかった。(図1)

(2) 通学時間の違いで何をするのか変わる

通学時間と通学中に何をして過ごしているかという2つの質問をした。後者に関しては複数回答にしてもらったところ、通学の時間が1時間半以上かかると回答した人は、通学中に何をして過ごしているかという質問に対して、必ず「睡眠」を含む回答をしていた。また、30分以下の場合には、一人も「睡眠」と回答した人は見られなかった。通学時間が長くても短くても「SNSなどネット」という回答は共

通していることが分かった。(図 3、図 4)

(3) 乗り換えの回数と通学中の過ごし方の関係性

乗り換えの回数と通学中に何をして過ごしているかという 2 つの質問をしたところ、「SNS などネット」と回答する人は全体で 80% という結果になり、乗り換えが多くても少なくても、通学時間と過ごし方の関係性と同じように、共通して通学中に「SNS などネット」をしている人が多いことが分かった。

「睡眠」と回答した人はどの乗り換えの数でも 60% を超える人が回答しており、「SNS などネット」に次いで多い結果になった。さらに「音楽」と回答した人は、どの乗り換えの数でも最低 40% は超える結果になり、約半数の人は乗り換えの回数に関係なく、通学中に「音楽」を聴いているということがわかった。また、乗り換えがない人と 1 回の人、数は少ないが「課題や勉強」という回答がみられたが、乗り換えが 2~3 回の人で「課題や勉強」と回答する人はみられなかった。乗り換えが少ない方が「課題や勉強」をするということが分かった。乗り換えの数と過ごし方については、共通していることが多く、「課題や勉強」においてのみ、乗り換えの回数で差が出てくるという結果になった。(図 5-1、図 5-2)

(4) 30 分以下と答えたすべての人が有意義でないという回答

通学時間と通学を有意義と感じるかどうかの質問では、30 分以下と回答した全ての人が有意義ではないと回答。また、1 時間 30 分~2 時間以上と答えた人の 8 割近くが有意義であると回答した。(図 6-1、図 6-2)

調査結果について

<調査概要>

1. 調査対象： 実践女子大生 3 年生(渋谷キャンパス在学学生)
2. 調査方法： 質問紙によるアンケート
3. 調査期間： 2016 年 5 月 20 日
4. 有効回答者数： 50 人
5. 回答者の属性：【実践女子大学生：学年】 3 年： 100%

本件調査担当

実践「ペルソナ」研究会

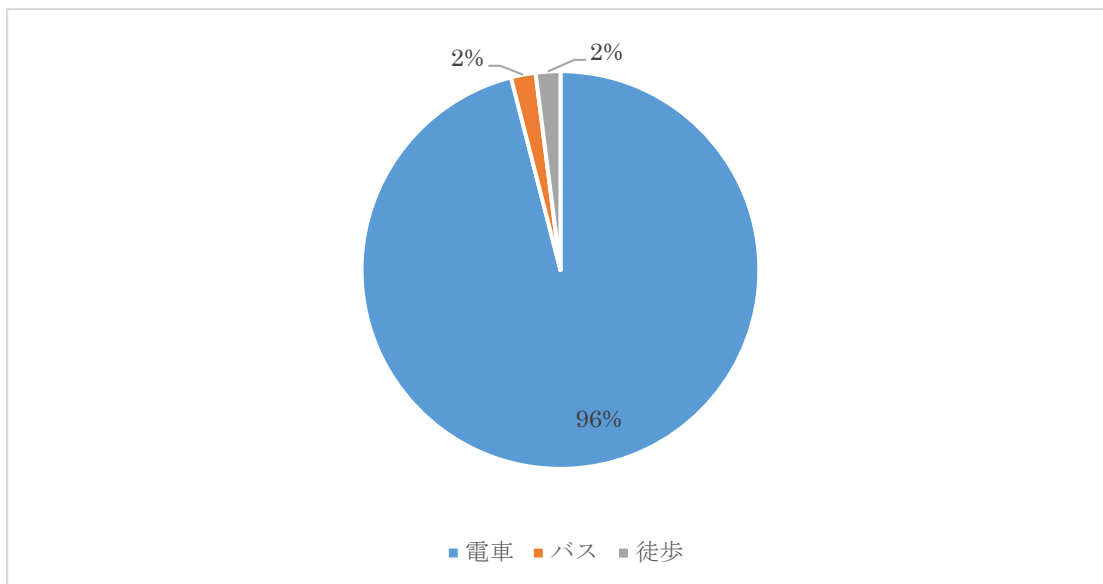
3 年 齊藤葉月

3 年 白倉由梨

3 年 鈴木沙季

(1) 電車を使って通学する人が 98%(n=50) (S.A.)

最も時間的に長く使う通学の手段を尋ねたところ、98%の人が「電車」と答えた。「バス」や「徒歩」という回答も見受けられたが、「自転車」と答えた人はいなかった。

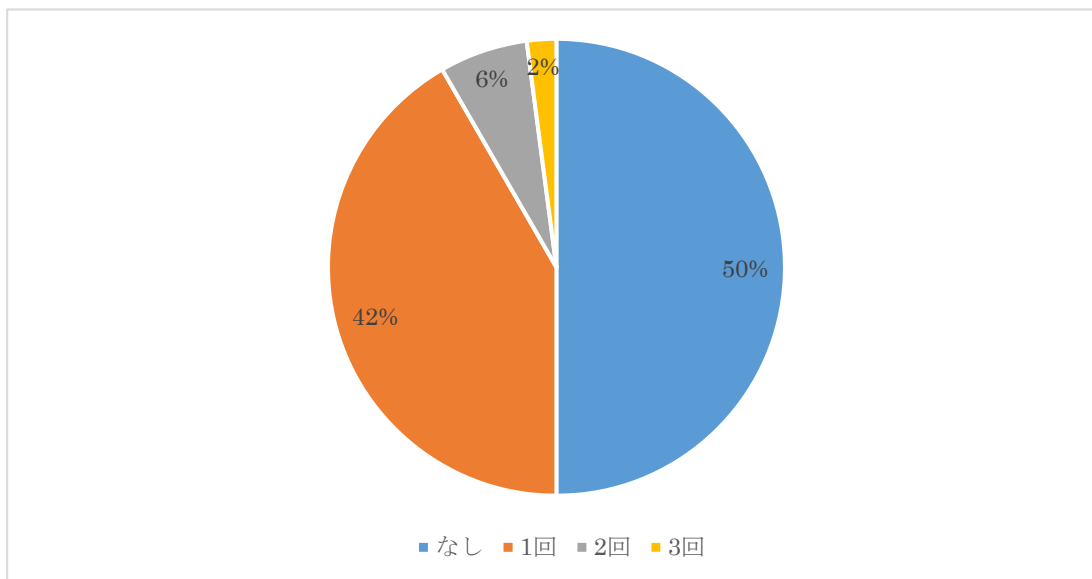


【図 1】 通学の手段(n=50)

(2) 実践女子大学生における電車の乗り換え数の実態 (n=50)

全体では最も多い乗り換え数は乗り換えなしが 50%、1 回が 42%、2 回が 6%、3 回が 2%であった。4 回以上と回答した人はいなかった。(1) の結果から、実践女子大学生は電車通学がほとんどであり、且つ

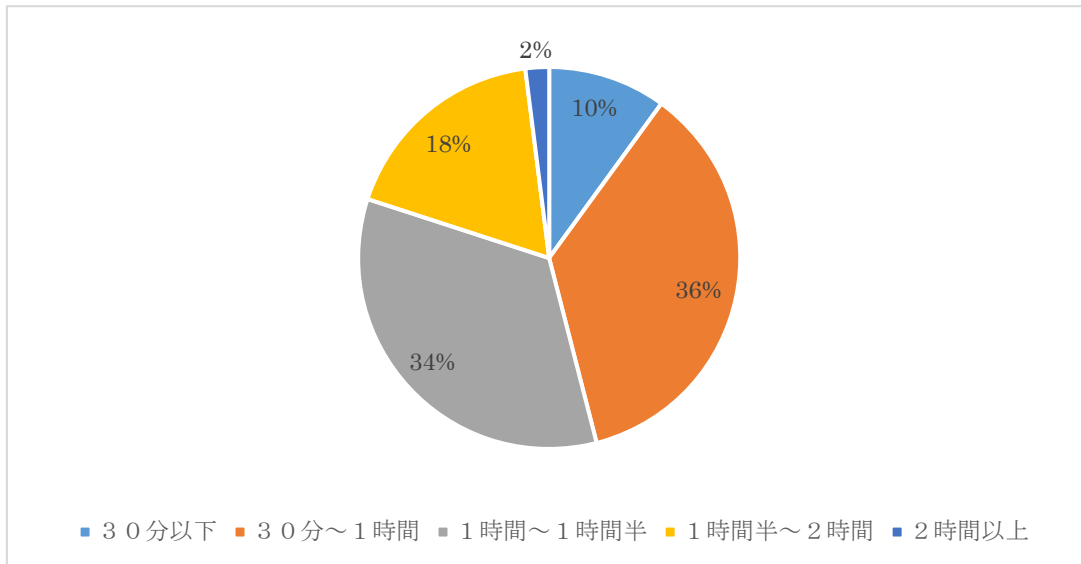
(2) の結果から、乗り換え数はなしが半数、なしと 1 回の合計が 9 割を超えることが分かった。



【図 2】 実践女子大学生の電車通学者の乗り換え数 (n=50) (S.A.)

(3) 実践女子大学生による通学時間の実態 (n=50)

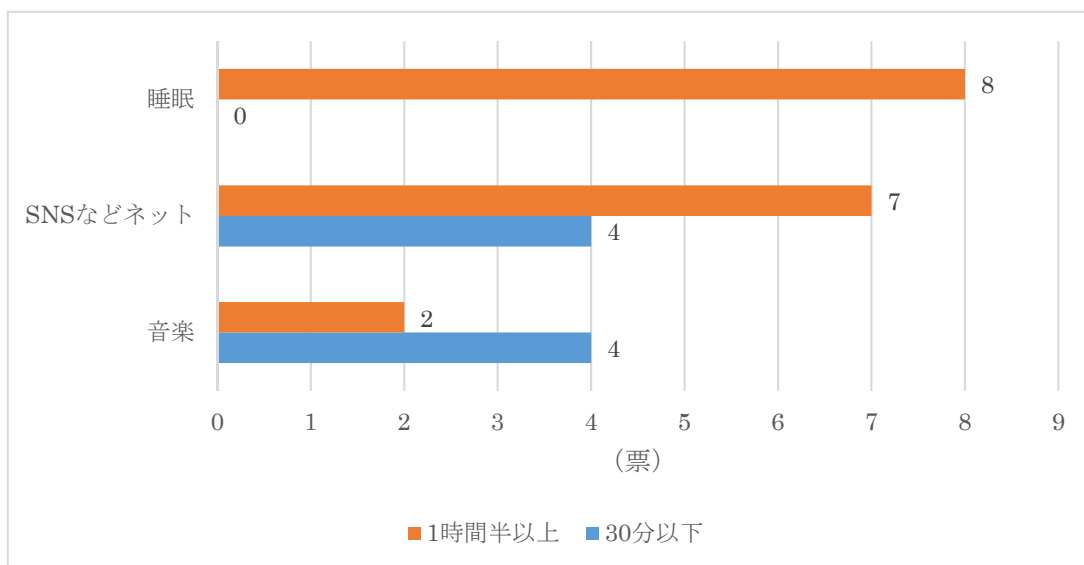
全体では最も多い通学時間は 30 分～1 時間が 35%、同じく 1 時間～1 時間 30 分が 35%で同率であった。次に多かったのは 1 時間 30 分～2 時間が 18%、次いで 30 分以下が 10%、最後に 2 時間以上が 2%であった。実践女子大学生は通学に 30 分～1 時間 30 分かけている人が多いことが分かった。



【図 3】 実践女子大学生の通学時間 (n=50) (S.A.)

(4) 通学の時間で何をするのか変わる

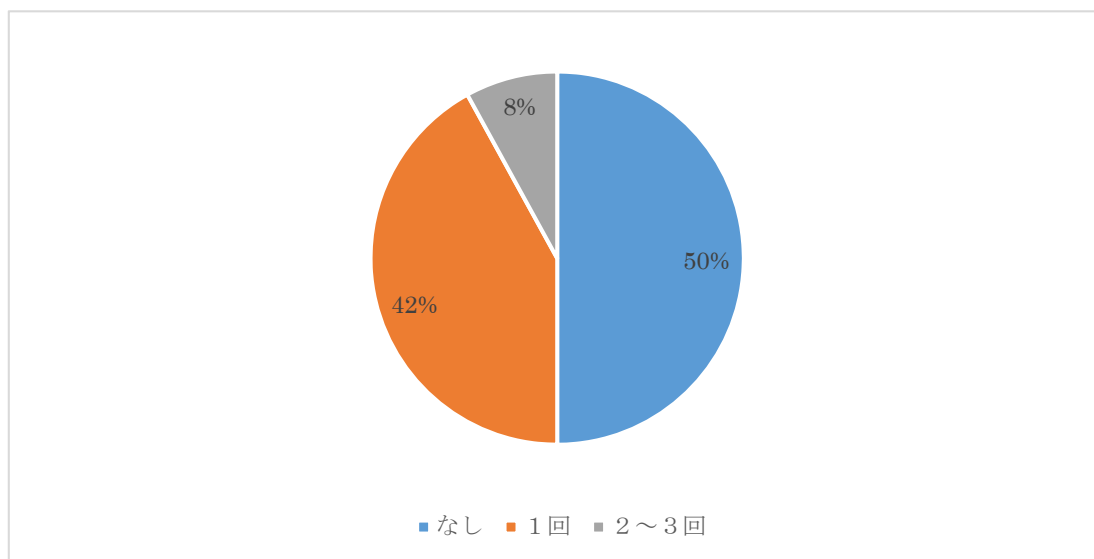
通学時間が 1 時間半以上かかると回答した人 (n=8) は、通学中にどう過ごしているかという質問に対して、「睡眠」や「SNS などネット」という回答が得られた。それらの回答の中でも「睡眠」は全員が回答する項目であった。また、30 分以下と回答した人 (n=5) では、一人も「睡眠」と回答した人は見られず、「音楽鑑賞」や「SNS などネット」という回答が多かった。通学時間が長くても短くても「SNS などネット」という回答は共通していることが分かった。



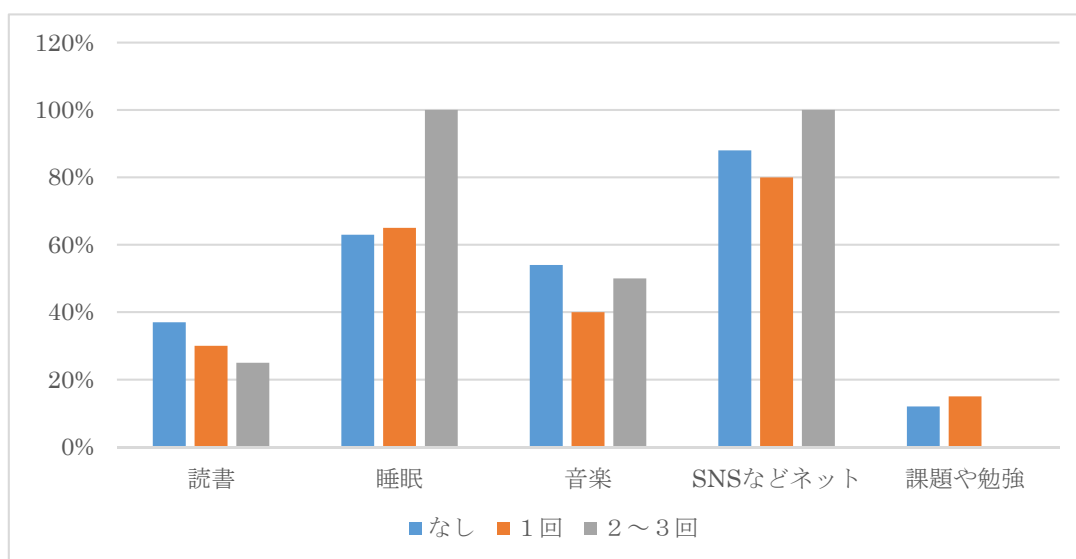
【図 4】 通学時間と過ごし方の関係 (n=50) (S.A.)

(5) 乗り換えの回数と通学中の過ごし方の関係性

「SNS などネット」と回答する人は全体 (n=48) で 80% という結果になり、乗り換えが多くても少なくても、通学時間と過ごし方の関係性と同じように、共通して通学中に「SNS などネット」をしている人が多いことが分かった。乗り換えなし (n=24) では 62%、1 回 (n=20) では 65%、2~3 回 (n=4) では全員の人が「睡眠」という回答をしており、「SNS などネット」に次いで多い結果になった。さらに「音楽」と回答した人は、乗り換えなしでは 54%、1 回では 40%、2~3 回では 50% 数という結果になり、約半数の人は乗り換えの回数に関係なく、通学中に「音楽」を聴いているということがわかった。「読書」と回答した人は共通して 30% 程度であった。また、乗り換えがない人と 1 回の人、数は少ないが「課題や勉強」という回答がみられたが、乗り換えが 2~3 回の人で「課題や勉強」と回答する人はみられなかった。乗り換えが少ない方が「課題や勉強」をするということが分かった。



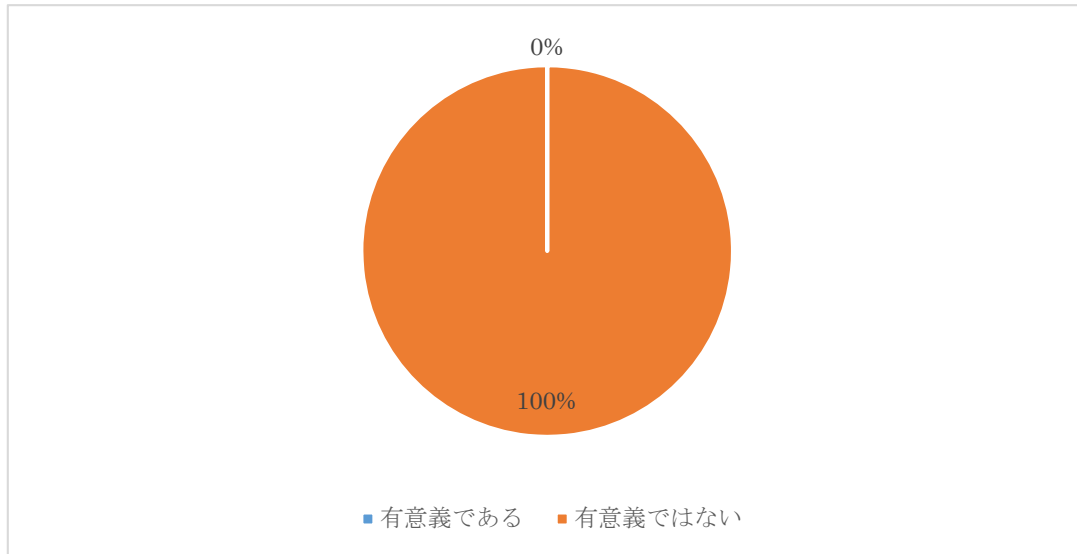
【図 5-1】 乗り換えの回数 (n=50) (S.A.)



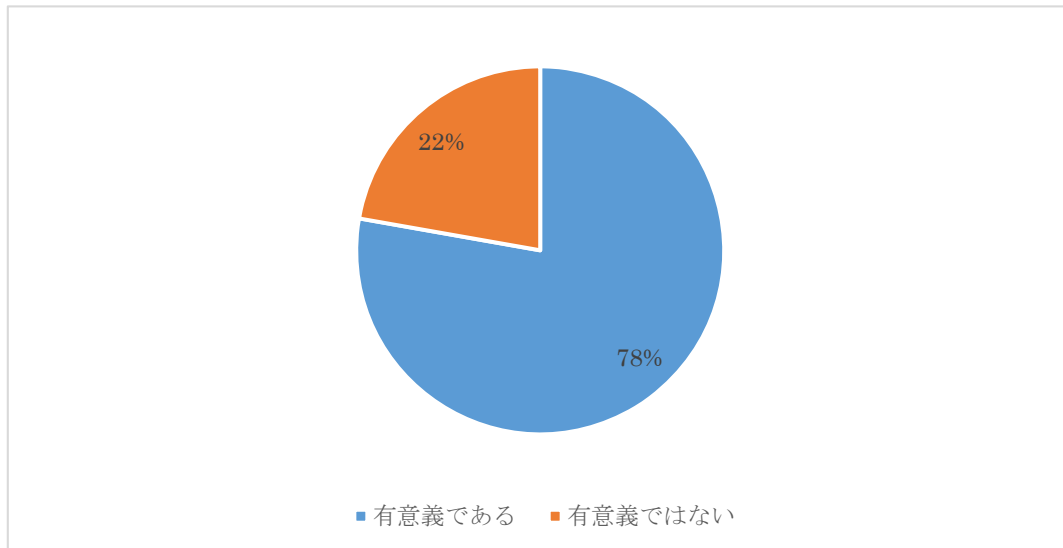
【図 5-2】 乗り換えの回数と過ごし方の関係 (n=50) (S.A.)

(6) 実践女子大学生の通学時間と有意義に過ごせているかの関連性

通学時間によって有意義であると感じるかどうかを検証するために比較的短い 30 分以下 (n=5) と、長時間になる 1 時間 30 分～2 時間以上 (n=9) の回答を分け、それぞれの有意義に過ごせているかを調査した。30 分以下では 100%が有意義ではないと回答した。1 時間 30 分～2 時間では 78%が有意義である、22%が有意義ではないと回答した。結果として、短時間の通学では有意義に過ごせている人は少なく、長時間の通学では有意義に過ごせている人が多いことが分かった。



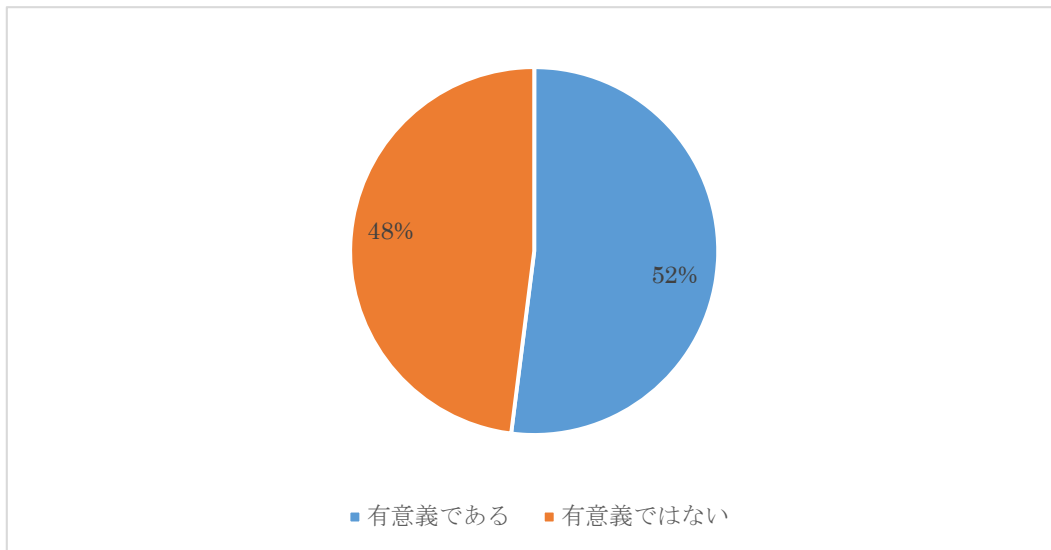
【図 6-1】 通学時間が 30 分以下の人が有意義であると感じているか (n=5) (S.A.)



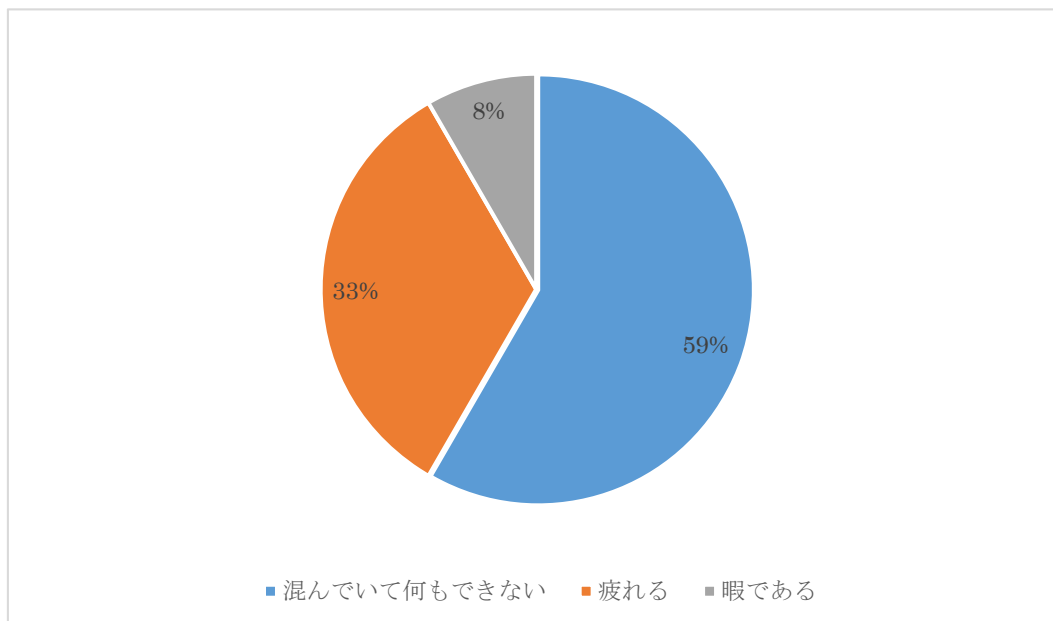
【図 6-2】 1 時間 30 分～2 時間以上の人が有意義であると感じているか (n=9) (S.A.)

(7) 実践女子大学生の通学を有意義に過ごせているかとその理由の関連性

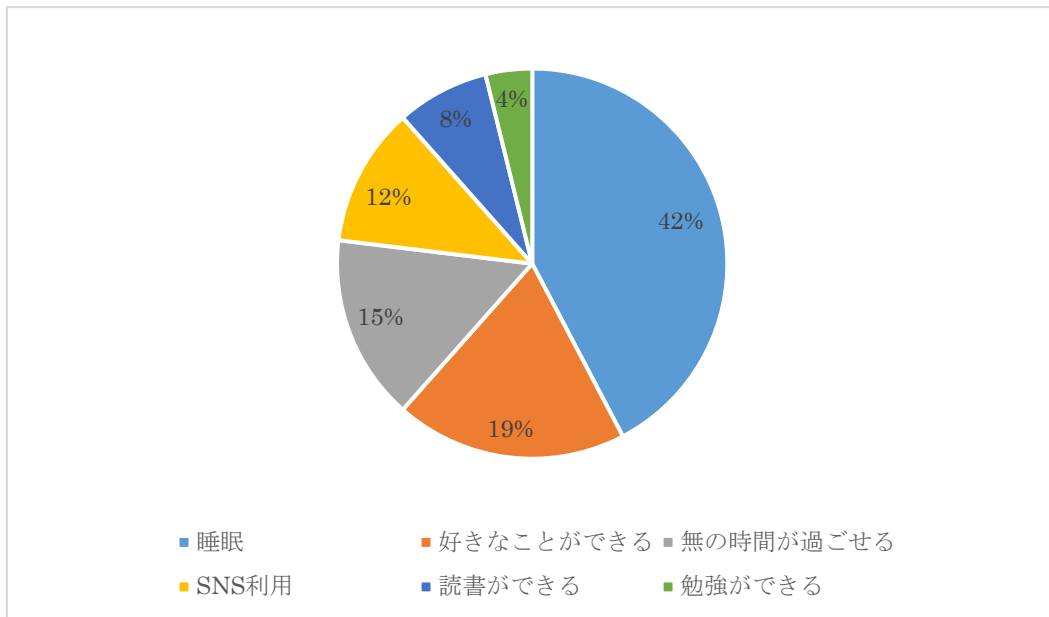
有意義かどうかに対する理由に検証のため、有意義であると答えた人の理由と有意義でないと答えた人の理由について調査した。まず有意義であると答えた人が 52%、有意義でないと答えた人は 48%とほぼ同率であることが分かった。さらに細分化し、有意義であると答えた人の理由についての調査では、42%が睡眠、19%が好きなことができる、15%が無の時間を過ごせる、12%が SNS 利用、8%は読書ができる、4%は勉強ができると回答した。有意義でないと答えた人の理由についての調査では、59%が混んでいて何もできない、33%が疲れる、8%が暇であると回答した。結果として、有意義に過ごせている人の半数近くは通学中に寝ているから、さらに好きなことをしているからであることが分かった。逆に有意義でない人は路線の混雑や通学時間の短さなどから疲労や圧迫感を感じていることが分かった。



【図 7-1】 実践女子大学生が通学時間を有意義に感じているか (n=50) (S.A.)



【図 7-2】 有意義であると回答した人の理由 (n=26) (S.A.)



【図 7-3】 有意義でないと回答した人の理由 (n=24) (S.A)